

鳥衣巷

劉禹錫

朱雀橋辺野草の花

鳥衣巷口夕陽斜

旧時王謝堂前燕

飛尋常百姓家入

〔作者〕劉禹錫（七七二～八四二年）中唐の詩人、大曆七年河北省定県（ていけん）に生まれる。字は夢得（ぼうとく）、号は禹錫。幼少より文才あり、貞元九年（七九三）の進士、官は檢校礼部尚書（けんこうれいぶしょうしよ）をもつて終る。柳宗元、白樂天と親交があり劉賓客（ひんかく）文集、他あり。七十一歳没。

〔語釈〕*鳥衣巷＝金陵（南京）の町の名 *朱雀橋＝朱雀門（都の南門）の外の秦淮にかかつていた橋

*王謝＝南朝最大の貴族、王氏と謝氏 *百姓＝人民、庶民（百姓は農民も含むがここでは特定しない）

〔通釈〕六朝（りくちよう）時代に栄えた朱雀橋の辺りは、今は荒れはて野の草花が咲き、鳥衣巷と呼ばれた町の入口には夕日が斜めにさしこんでいる。昔、王氏や謝氏の邸宅に巢を作っていた燕が、今は庶民の家の軒先に巢を作っている。

